

第2回（仮称）もみじ台地域まちづくり指針検討委員会 議事概要

日 時

令和4年（2022年）9月30日（金） 13時30分～15時30分

場 所

厚別区役所 3階講堂（札幌市厚別区厚別中央1条5丁目3-2）

出席者

<検討委員会委員>（順不同・敬称略）

北星学園大学 経済学部 教授	鈴木 克典	委員長
札幌学院大学 人文学部 准教授	新田 雅子	委員
地方独立行政法人 北海道立総合研究機構 理事長	小高 咲	委員(※)
(株)Localize 代表取締役	庄田 健助	委員(※)
(株)ホクノー 代表取締役社長	野地 秀一	委員
もみじ台西郵便局 局長	杉下 圭史	委員
SOC(株) 代表取締役社長	朝倉 由紀子	委員
もみじ台自治連合会 会長	東 健二郎	委員
もみじ台まちづくり会議 副議長	高澤 英治	委員
もみじ台市営住宅自治会連絡協議会 会長	須貝 淑郎	委員

※小高委員及び庄田委員はオンラインで参加

<事務局>

札幌市 まちづくり政策局 都市計画部 地域計画課	調整担当課長	林 久哲
〃	調整担当係長	大宮 弘之
〃	調整担当係	山本 郁也

配布資料

- 会議次第
- 資料1 (仮称)もみじ台地域まちづくり指針検討委員会 委員名簿
- 資料2 第2回(仮称)もみじ台地域まちづくり指針検討委員会 座席表
- 資料3 もみじ台地域のまちづくりの方向性について
- 参考資料1 現況図
- 参考資料2 「子育て支援の取組」や「団地の利活用」に関する他都市事例
- 参考資料3 もみじ台まちづくりビジョン

議事概要

1 開会

開会あいさつ

2 事務局説明

事務局より、資料3に基づき、第1回検討委員会の振り返り、もみじ台地域のまちづくりの方向性について説明。

3 意見交換

<小高委員>

- 地域で作成したもみじ台まちづくりビジョンと指針の方向性が一致しており良いと思う。
- 「5(2) 目指す将来像・目標(案)」に目標が並列に記載されているが、1つ目の目標「若い世代をはじめとした様々な世代が住みたくなるまち」が特に重要で、多くの方が望んでいることだと思う。教育環境の充実を核に子育て世代を呼び込み、それがきっかけとなって世代間の交流が密に行われ、教育的にも良い地域であることをアピールして好循環が生み出されると良いと思う。

<東委員>

- 地域で作成したもみじ台まちづくりビジョンと指針の方向性が概ね一致している。
- 市営住宅で暮らす単身高齢者が多数いることから、法律上難しいかもしれないが、単身高齢者向けの市営住宅をある程度整備する必要があるのではないか。
- 地域の中心部に義務教育学校を設置されることで、子育て世代が移り住んでくることが考えられる。また、もみじ台地域が変わっていくことが住民に伝わると思うので、まずは義務教育学校の整備から着手してほしい。

<鈴木委員長>

- 将来像にある、“いままで”と“これから”には資料に例示されている事項以外にも多くの意味や思いがあると考えられる。地域における今までの魅力や財産を大事にしながら、これからのまちづくりに向かって新たな視点を考えていくことになると思う。

<須貝委員>

- まちづくりの方向性に、防災の視点を含める必要があるのではないか。特に、緊急時の避難場所について触れるべきだと思う。
- 単身高齢者の見守りの必要性は今後も続くと思われ、再編にあたり、どのように対応していくかについても課題の一つだと思う。
- 実際にもみじ台で暮らすと住みやすい地域と感じられるが、地域外から見たときにも魅力的な地域と思ってもらえることが必要だと思う。例えば、教育環境を向上させるほか、子育てが終わってから働ける場所をもみじ台に充実させるなど、特に、子育て世帯に魅力を感じてもらえるようにまちづくりを進めてはどうか。

<杉下委員>

- 地域外の人にも魅力的な地域であると感じてもらうためには、もみじ台ならではの特徴が必要かと思う。
- 例えば、ソーラーパネルの導入や地域暖房の熱エネルギーを活用して雪を解かすことで、雪かきの負担を軽減したり、雪かきの負担が少ない高層マンションを建設するなど、降雪に伴う負担が少なく住みやすい地域とすることが考えられる。
- もみじ台地域は少し高台となっているため、トンネルを設置し、雪の影響を低減したり、緊急時は防災用のシェルターとして活用したり、中心部の商業施設と接続することなどがアイデアとして考えられる。

<小高委員>

- 単身高齢者向けの住宅については、特定の属性向けの住宅とするのではなく、一つの住棟に様々な間取りを設け、多様な属性の市民が暮らせる市営住宅の整備を進めることが望ましいのではないかと。
- もみじ台は札幌市の端のようなイメージを持っている人がいるかもしれないが、JR と地下鉄の駅を有する新札幌の周辺地域で、新千歳空港ともアクセス性が良い地域であり、今後、教育環境が整備され、地域で進める防災や雪対策、脱炭素に向けた取組などと併せてPRしていくことで多様な人々を呼び込めるのではないかと。

<朝倉委員>

- IT業界全般において働き手が集まりにくい傾向にある。そのような状況の中、テクノパークは、交通利便性が高くはないことから、働き手の確保に苦慮している企業が多いようで、各社で独自にマイクロバスを運行するなど工夫している。
- こうした交通利便性の低さに伴う課題については、テクノパークの従業員がもみじ台に住むことで通勤がしやすくなり、解決するのではないかと。テクノパーク協議会としては、職場の近くに住む場所を確保できる働き口があることをPRできれば良いと考えている。
- 義務教育学校が設置された場合、出前授業など特色ある授業を提供することが可能であり、教育環境の充実や若い世代の呼び込みに貢献できるものと考えている。
- テクノパーク内のエレクトロセンターをリニューアルし、憩いの場としているが、現状は日中の利用者があまりいない。今後、交流イベントなどを行い、市民の方に気軽に利用してもらえ場としてアピールしていく考えであり、もみじ台のまちづくりと連携していきたいと考えている。

<高澤委員>

- もみじ台地域のまちづくりを進める上で、テクノパークとの連携は不可欠であると考えている。
- テクノパークの企業が撤退してしまい空地になってしまったという話を聞くため、建物の用途規制はあるが、特例的にテクノパークの敷地内に居住地を設けるのはどうか。そうすれば、もみじ台とテクノパークで地域同士のつながりが生まれ、お互いのイベントに参加し合って盛り上がるのではないかと。また、テクノパークの従業員が通勤する車両と通学路が干渉しなくなる

ので、子どもたちが安全に通学できて良いと思う。

<東委員>

- もみじ台地域内にテクノパークで働く人が住めるようなマンションが建設されれば、通勤しやすくなるので良い。検討いただきたい事項として、まちづくりビジョンに記載している。

<朝倉委員>

- 会社として、従業員が職場の近くに住むことができれば、入社希望者が増加するかと思うのでありがたい。また、テクノパークの職員と地域の方が交流できる機会については、小さなことから考えていきたい。

<須貝委員>

- テクノパークと、まちづくり会議や自治連合会が連携し、イベントを実施することは今からでも取り組めることであり、将来に向けた布石になると良いと思う。また、子どもたちが集まるようなイベントが行われれば、地域内外を問わず多くの人が行ってみたいと思うのではないかと。
- もみじ台を訪れる人が多くなると、コミュニティ内を循環する交通手段を検討することにもつながる可能性があるため、もみじ台とテクノパークの連携は重要だと思う。

<鈴木委員長>

- 出前講座について、サタデースクールなどで学校と地域がつながっている取組があるようだ。

<高澤委員>

- もみじ台では、サタデースクールにいち早く取り組んでおり、自転車の安全教室やフロアカーリング、パークゴルフ、熊の沢公園の見学など、子どもたちと交流する良い機会となっていた。
- しかしながら、ここ約3年間は新型コロナウイルスの影響で全く取組が行われておらず、子どもたちとの接点が減ってしまった。

<野地委員>

- 指針の総論については良いと思う一方で、他との連携やネットワークの視点が少し弱いと感じている。
- 例えば、義務教育学校については、立命館慶祥中学校・高等学校や札幌日本大学中学校・高等学校と連携して、義務教育学校から近隣の学校への推薦枠を設けるなどが考えられる。
- また、北広島市のボールパークや新さっぽろの再開発の影響で札幌市の東側とその周辺が盛り上がりつつある。これらの地域に江別市を加え、その中でもみじ台の位置づけやネットワークについての整理が必要だと思う。
- 札幌市では除雪は避けて通れない視点であり、特に高齢者については、雪による転倒リスクが高まることから、冬は外出を控える人が増えるという問題もある。魅力ある団地としていくために、例えば、ソーラーパネルにより発電し、ロードヒーティングで雪を解かすことで除雪不要な地域とすることなどが考えられる。

- そのほか、今後の電気自動車の普及を見据えて、電気自動車の充電設備を導入することなども考えられる。

<東委員>

- 室蘭市にある白鳥台団地では、団地の中心にあったスーパーが撤退し、住民の買い物利便性が著しく低下したようだ。地域にあるスーパーの存続は非常に重要であり、もみじ台の場合、中心部にあるホクノ一の存続とともに中心部のにぎわいづくりが必要だと考えている。
- まちづくりビジョンでは、地域の中心部にある熊の沢公園に多くの人が集まる取組案をいくつか記載しているものの、一般市民のアイデアでは限界があると感じている。具体的なアイデアについては、大手のデベロッパーなどにコンペ形式で提案してもらおうのも一つの方法だと思う。

<庄田委員>

- 子育て世代が集まりたくなるような場所を考えると、緑が多くあることが望ましいので、熊の沢公園は地域にとって大きな武器と言える。地域の中心部を緑化して熊の沢公園を拡張し、魅力を高めていってはどうか。
- 義務教育学校の環境整備や他校とのネットワークの構築等が必要だと思う。
- 指針の方向性については概ね良いと思う。今後、具体的な取組を進めるにあたり、取組の内容や担い手、資金調達、実現性などの各論の検討が重要である。
- 住民参加型がもみじ台らしい進め方だと思うので、札幌市は地域の声を取り入れながら進められるとよい。
- 取組を具体化するにあたり、事業構築が実現できる人、デザインに長けた人なども参画してもらい、地域の思いを形にしていけると良い。

<鈴木委員長>

- 今後、具体的な取組を検討するに当たっては、多様な人々が暮らしやすいまちを形成するために様々な人の参画を促すほか、住民も積極的に動いていけると良い。
- 室蘭では、自主防災の活動が盛んになっているほか、商店街でBCP（Business Continuity Plan：事業継続計画）を検討している。地域のことは住民がよく知っているので、住民が自分ごととして捉え、何らかの形でまちづくりに反映していけると良い。

<高澤委員>

- もみじ台南中学校が廃校となり、地域の南側の防災拠点が減ってしまった。地域の高齢化が進んでいる中、高齢者同士で助け合うことは難しいところもあり、これからのまちづくりにおいて、防災拠点は欠かせない要素だと思う。例えば、テクノパークに防災拠点を設けて活用できると良いのではないか。

<新田委員>

- 若い世代など、多様な世代が住みたくくなるような新たなにぎわいや取組を創出するまちづくりを目指す一方で、もみじ台は、住宅セーフティネットの役割を担う市営住宅を多く有すること

から、再編を検討する中で、様々な事情により市営住宅を必要とする方々への配慮など、福祉の視点をどのように考えて取り組んでいくかも重要だと思う。

<須貝委員>

- もみじ台南中学校の校舎は解体工事中だが、例えば建物の耐震化を図り避難所として活用するなど、解体せずに活用するという考え方もあったのではないだろうか。

<東委員>

- もみじ台はベッドタウンのイメージが強いが、まちづくり指針では、“ニュータウン”など新しいイメージを打ち出していきたい。まちづくりビジョンの副題には“ニュータウン”の文言が入っている。

<鈴木委員長>

- 国では、スマートシティの取組に対する助成制度などを行っており、このような制度を活用し、モデル地域等となることを目指し申請することを検討してはどうか。もみじ台は緑豊かな住みやすい地域であり、地域暖房が導入されているエコに関して先進的な地域でもあるほか、高齢化がいち早く進んでいる日本の縮図ともいえる地域である。さらにテクノパークが隣接することにより ICT・DX 環境に特徴があり、また教育施設もある。このような特徴のある地域でどのようなまちづくりを進めていくかという視点で考えることができれば採択される可能性はあると思う。また、採択されれば、もみじ台が全国に発信されることにもなり、PRとしても良いと思う。
- 交通、防災、脱炭素化などが重要な視点になってくると思われ、交通については、バスなどの既存交通の利用のほか、BRT（Bus Rapid Transit：バスを基盤とした大量輸送システム）などの事例も参考にしながら考えるのが良いと思う。

<東委員>

- まちづくりの進め方について、全国的にみると、行政の検討案を地域に提案する進め方が大半で、もみじ台のように地域住民から行政にまちづくりの案を提出した事例は珍しいようだ。
- 地域再生法に基づく国の支援などを活用し、コストを抑えながらも充実したまちづくりを進めていけるとよい。
- 住民としても市と協力しながらまちづくりを進めていきたいと思っている。

<高澤委員>

- 現在、もみじ台には入院施設を有する病院がないが、今後必要だと思う。もみじ台南中学校の跡地を活用して、入院できる病院や高齢者施設などができると良いのではないかと。

<杉下委員>

- 先ほど提案したソーラーパネルやシェルターの設置などの取組もそうだが、今後のまちづくりの取組では、予算面が課題となってくると思う。企業や大学の実験・研究等と連携することで

取組を進められる可能性があると思うので、検討していけると良いと思う。

＜鈴木委員長＞

- 美唄市では、排雪した雪を貯めて、冷房、魚の養殖、野菜の貯蔵に活用する取組を民間事業者が進めている事例があるようだ。そのような事例も参考に、テクノパークとの連携可能性なども合わせて検討していけると良いと思う。

4 事務連絡

- 本日の議事内容については、委員への確認の上、後日ホームページで公表する。また、ニュースレターを作成し、地域の方々にもお知らせする予定としている。
- 次回の検討委員会は、早ければ令和4年12月以降の開催を想定。今回の検討委員会の内容を踏まえて、土地利用のイメージも含めたまちづくり指針素案の概要を提示したい。